

## 「涅槃会に想う」

北海道 龍仙寺住職 清水 常雄

月日の過ぎるのは早いもので二月に入りました。二月は仏教徒にとってとても大切な日があります。皆さんはおわかりですね。

二月十五日の涅槃会です。涅槃会とは、お悟りを開かれ、「仏陀」となられたお釈迦様がお亡くなりになられた日で、毎年、涅槃会として法要を修行しています。

更に四月八日は、ご誕生された降誕会、十二月八日はお悟りを開かれた成道会があり、この三つの尊い日を合わせて三仏忌として法要が営まれて参りました。いま私達はその教えに出会い、学ぶとき家族皆が、心穏やかに感謝報恩の思いとなり仏道を歩むことが出来るのです。

涅槃会法要を修行するお寺では、本堂内に大きな涅槃図を掛けて、前卓には浄らかな水、お花、お菓子やくだもの等が供えられ、特に涅槃団子といって、お釈迦様の舍利(骨)を模したもので、青、黄、赤、白、紫の五色のカラフルで可愛らしいお団子が沢山作られて供えられます。そして、法要終了後には、賑やかにお団子まきをするお寺もあって、お団子を食べると健康長寿になると言われ、それを楽しみに家族連れで参加されている方々もいる様です。是非一度、参加してみましよう。

さて、お釈迦様の最後の説法は「仏遺教経」というお経に残されています。死を悟られたお釈迦様が、亡くなる前に弟子達を集めて、最後の説法をされたのです。

「この世のすべては移り変わりゆく。怠ることなく精進するがよい」という言葉でした。仏教徒の私達が最も重く受け留めるべき言葉でしょう。

「すべてのものは移り変わりゆく」は、諸行無常と漢訳されています。諸行とは、すべての存在、無常は変化し続けるという意味です。常に移り変わりゆく世の中に生かされている私たちであるからこそ、その場、その時を疎かにすることなく大切に精一杯に生きて行きましようかと教えています。